

上海レポート

令和4年12月号

Vol. 28



公益財団法人 大阪産業局上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20221205号	上海の弄堂(ロンタン)文化	秘書 孫芸
20221212号	急激なコロナ規制緩和	所長 南浦秀史
20221219号	上海市内におけるコロナ感染症拡大について	所長 南浦秀史
20221226号	上海科学技術館について	副所長 土佐憲弘

上海の弄堂(ロンタン)文化

上海とは言えば、高層ビルが建ち並ぶ大都市のイメージが強いです。今回は上海生まれ、上海育ちの私から上海独自である弄堂(ロンタン)について、皆さんに紹介したいと思います。

「弄堂」は、上海地方の方言で、上海独特の住宅形式である石庫門などの集合住宅の間や敷地内を走る路地、横丁を指すものです。単なる通路としてだけでなく、さまざまな上海の人々の日常生活や交流、遊びの場などとしても機能していました。かつての上海人の生活と切り離せないものでした。

「弄堂(ロンタン)なしには上海も上海人もあり得ない」という言葉があります。弄堂では、のり付けされた衣服が路地を跨ぐようにして干されていて、家々からは炒め物の音が聞こえ、晴れた日、特に寒風のない冬には路地の入口で老人たちがラタンチェアを持ち込んで座り、温かい日差しを浴びながら世間話に花を咲かせました。また、ラジオを聴きながらお茶を飲んだり、新聞を読んだりしました。

子どもたちは、ゴム飛び、輪回し、ビー玉、あや取りといった代表的な遊びを楽しんでいました。当時物が豊かでなかった私たちは想像力を発揮し、道にあるあらゆるものを利用して遊び道具にし、友情を得ました。

弄堂は上海の人々の生活を癒し、社会の活力を高めてくれた場所です。しかし、都市再開発の波の中で弄堂が破壊され、そこに高層マンションが建てられました。都市がどんなにモダン化しても、昔から変わらないのは近所の関心とふれあいを大事にする心。人と人との交流が減少して来たこの時代に「弄堂(ロンタン)」は心から暖かいモノを感じられた場所でした。



急激なコロナ規制緩和

直近の上海市当局の発表によると、市内のコロナ感染状況は、12月11日の24時間で、症状ありの新規感染者11名、無症状の新規感染者120名、海外からの症状ありの新規感染者7名、同無症状の新規感染者40名という状況です。

この1～2週間、ぎゅっと強化されつつあったコロナ規制ですが、矢継ぎ早に緩和施策が打ち出されています。主なところでは、11月23日にコロナ感染者が増え始め、流行の兆しが見え始めたころに健康管理の強化措置が発表されました。上海市外から入ってきた人は、携帯電話で表示される健康コードの画面に、太い赤字で「到着5日未満」と表示され、スーパーやショッピングモールなどには入場できないこととされました。また、到着時のPCR検査に加え、3日間で3回、そして、5日目に1回受診することを要求され、その結果が陰性であることが確認されて初めて「到着5日未満」の表示が消えるというものでした。これにより、実質的に本当に必要な出張以外はできなくなり、多くのイベントが急遽オンラインに変更あるいは延期になりました。

そんな中で、12月4日、まず防疫措置の最適化が発表され、公共交通機関や公園などの公共の場所でPCR検査結果を確認しないということ、さらに、12月7日には、市外からの入境者に課された「到着5日未満」の措置等はすべて緩和されました。これらの措置緩和により、在上海の駐在員の皆さんは、年末の忘年会シーズン、市外に出ると飲食の場に出ることができなくなるのであきらめていた出張が、問題なく行けることになりました。

一方で、市中感染のリスクが高いので、どう対応したらよいか、市民の間では、戸惑いがあるようです。条件を満たせば陽性者や濃厚接触者の自宅隔離もあり得るとのことで、解熱剤やセルフ検査キットなどが値上がり、もしくは、品切れになっていたりします。せっかく自由に出ていくことができるようになりましたが、しばらく外出を控えるといった人も多いようです。



上海市内におけるコロナ感染症拡大について

これまでのゼロコロナ政策から 180 度転換し、急遽ウイズコロナになった中国・上海市内の状況について報告します。

私たちの身近なところでも感染者が出始めました。駐在している日本人社員も軒並み PCR 検査や抗原検査で陽性になっています。発熱がある人もない人もいるようで、症状の出方は人それぞれようです。政府の発表では、陽性が判明してから 6 日目、7 日目に実施する PCR 検査で陰性になれば、隔離解除。隔離も特に問題がなければ自宅で実施することとされています。

これまで、政府の厳しい指導のもとで封鎖や隔離などが実施されてきました。ここに来て、まったく自主的に在宅勤務やローテーション勤務、時差出勤など、これまで取られてきた感染防止の方法を自分たちで判断して実施していかなくてはなりません。

つい先日まで携帯電話に表示される健康コードの 48 時間以内や 72 時間以内の陰性証明がないと公共交通機関を利用できなかったり、スーパーなどに入れなかったりといった規制は、病院など特殊な場所を除き、完全に撤廃されました。先週末は四川省・成都へ出張しましたが、空港に入る際も飛行機に乗る際も、また、成都の空港を出る時も宿泊先でも、まったく見せる必要がなく、これまでの厳重な管理を経験してきたものにとっては、あまりにももの変わりぶりに拍子抜けする思いです。

1 月には春節(旧正月)があり、人が大きく動きます。それに伴い、これから感染のピークが来るとも言われています。今一度、感染対策の基本に立ち返り、徹底することで乗り切りたいと思います。



上海科学技術館について

上海市には、科学技術等をテーマにした巨大な博物館である上海科学技術館があります。建築面積 10.06 万平方メートルの広大な館内には、ロボット・宇宙・生物等 11 の常設展や、シアターがあります。入館するには、インターネット上で、時間帯ごとの入館制限人数を確認し予約をする必要がありますが、予約済みのスマートフォン画面を博物館入口の係員に提示すると、速やかに入館チケットを発行してくれます。係員は外国語翻訳の携帯端末を使用しながら案内をしてくれました。

グッズ売り場やフードコートがある 1 階から 2 階の展示エリアへ上がると、まず驚かされるのが本物そっくりの動物レプリカが並ぶ、生物に関する展示エリアです。レプリカのあまりの精巧さに動物園にいるような感覚になりました。動物だけでなく、魚類、昆虫、ウイルスまで陸と海のあらゆる生物が共存する展示がされていました。

また、ロボット技術の展示では、色々な機能を持つロボットが紹介されていました。絵のスケッチができる、ピアノを弾くことができる、来館者が提示する絵柄に合わせてブロックを並べることができるロボット等あり、科学技術の進展を感じることができます。

宇宙をテーマにした展示エリアでは、世界で最も多機能な宇宙服の展示や、宇宙飛行士の気分が味わえる 360 度回転する椅子の体験コーナーがあり、家族連れで賑わっていました。

2001 年 12 月にオープンし、海外からも多くの来館者が訪れており、公式ホームページは、中国語以外に日本語、韓国語、英語、フランス語に対応しています。中国文化和旅游部は、上海科学技術館を上海で 4 つしかない中国内観光地の最高等級「国家 5 A 級旅游景区」に認定しています。博物館の名前にもある科学技術と聞くと難しそうなイメージが浮かぶかもしれませんが、見て楽しめるだけでなく展示物には体験型のアトラクションもあり、年齢に関係なく科学技術に親しんで学ぶことができると思います。

